

☆ ボランティアさんの一言 ☆

梅雨の季節になりました。毎年なのですが、星空を楽しめる日が少ないのが残念です。なので貴重な晴れた晩には、ぜひ空を見上げて下さい。天頂（頭の上）から西の方角には、春の星座の星々が見られます。その中の明るい星々を結びと、「春の三角形」「春の大曲線」が描けます。これを見つけられれば、おもな春の星座を見分けられるでしょう。一通りながめたあと東の空を見ると、夏の星々が徐々に昇ってきます。梅雨明けまで見逃してしまうと、いつの間にか星空も夏を迎えていた・・・と、驚くことになります。

（星呑屋より）

開館時間：15：00～21：30

☆ 6月の見頃の時間は19：30ごろです ☆

↓ 当日の天候はWeb、またはFacebook・Twitterにて ↓



Web



Facebook



Twitter



Instagram

#くらぶちこども天文台

新Webになりました!



くらぶちこども天文台
KURABUCHI KODOMO OBSERVATORY

〒370-3403 群馬県高崎市倉渕町水沼2930番 TEL：027-386-6837

※ お天気などご不安な点ありましたらお気軽にお電話ください ※

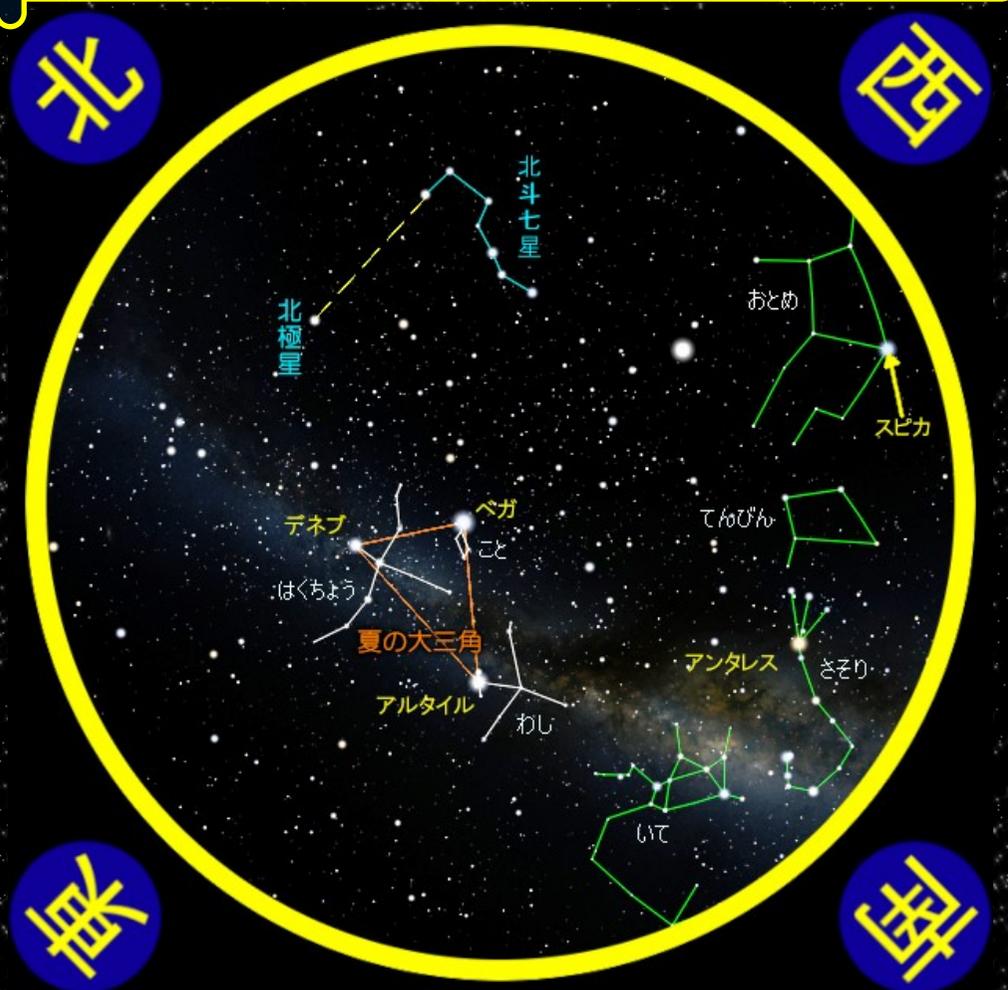
くらぶちこども天文台

2022★6月の星空

そろそろ梅雨の季節になってきました。星の光を眺める観望会は、残念ながら空が晴れてこそそのもの。雨が降り、厚く雲が覆うこの時期はなかなか晴れ間に恵まれません。しかし、夕立や雨上がりの空は大気中のチリやホコリが綺麗に洗われ、とてもすっきりとした美しい星空になる奇跡が起きることがあります。梅雨は量より質、そんな季節なのかもしれません。



今月の星座



Stellarium 0.19.0 / <https://stellarium.org/ja/>より

誕生星座は、【おとめ座】【てんびん座】が見ごろになり、時間が進むと【さそり座】や【いて座】が南の低い位置に昇って進みます。そして無事に梅雨が終われば、空は夏模様。天頂付近（真上）には『夏の犬三角』と、なによりも雄大な天の川が姿を現します。月初と月末の月明かりの少ない夜を選んで、ぜひ、倉淵の肉眼で見れる天の川を楽しんでくださいね！

星空トピックス 『観望用語-天体編』

星空を知るには欠かせない解説。当館では初めて星空を眺める方でも楽しめるよう、わかりやすい解説を心掛けています。今回は星空観望会でよく聞く天体に関する用語をまとめてみました！

◇ これであなたも星空ツウ？主な観望用語辞典

恒星：一般的に“星”と呼ばれるもの。自ら光り輝くガスの塊で、私たちの身近にある太陽もその一つです。

重星：肉眼では一つに見える天体でも、望遠鏡で見ると複数個の星で構成されているもの。二重星や七重星など様々です。

星団：同じガスから誕生し、互いの重力によって結びついた恒星の集団。その見た目から、すばるのような散開星団とM3のような球状星団に分けられます。

星雲：宇宙空間を漂う、重力的にまとまったガス状物質の天体。一生を終えた恒星が放出した残骸や、新たな恒星のゆりかごも星雲の一つです。

メシエ天体：よく聞く『MOO』。1774年以降にフランスの天文学者

シャルル・メシエと後継者がまとめた天体110個を指します。

初心者でも見やすい天体たちなので分かりやすく人気です。